

大正十二年九月一日

九月一日 此の日、午前十一時五十八分。所謂都會の文化は一瞬にして灰燼に歸した。資本家も労働者も共に、大自然の威力の前にひれ伏し、大自然の暴虐に戰慄した日だ。

九月一日 此の日が我等に取つて忘るべからざる日であるのは、震災によつて失はれた物質に對する執着からであつてはならぬ。大自然の暴虐！それは不可抗力であると思ひ得る。我等は大自然に向つて復讐を計畫する事の馬鹿々々しさを知つてゐる。されど兄弟よ！あの震災を機會として、我等無産階級に對して加へられた特權階級の暴虐は、決して不可抗力ではないのだ。日に日に増大して行く労働階級の威力に恐怖を感じた特權階級が、あの震災を機會として我等無産階級に逆襲を試みたのだ。

兄弟よ！ 九月一日は我等に取つて忘るべからざる日であるのだ。

九月一日 此の日は、労働者も資本家も恐怖した日だ。されど、兄弟よ！ 資本家階級に對して、あの九月一日に、凡ての人が感じたより以上の、恐怖を與へる事が我等労働者の任務であり、義務である事を忘れてくれるな

九月一日 此の日、正義の爲めに、特權階級の魔の手に擧げた先驅者の登き血汐を忘れるな！

- 機械労働組合聯合會
- 關東労働組合聯合會
- 印刷工聯合會
- 自由労働者同盟
- 東京朝鮮労働同盟會
- 市電従業員自治會
- 造船船工勞組合
- 芝浦労働組合
- 官業労働關東同盟會

大正十二年九月一日